

製品名: RIN1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17197**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	84kDa

抗原情報

遺伝子名	RIN1
別名	RIN1; Ras and Rab interactor 1; Ras inhibitor JC99; Ras interaction/interference protein 1
遺伝子 ID	9610.0
SwissProt ID	Q13671
免疫原	抗血清はヒト RIN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 655-704

背景

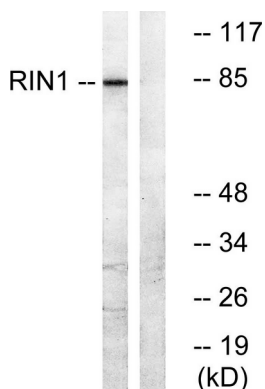
機能: 嫌悪記憶形成における神経可塑性の抑制調節因子として機能する可能性のある Ras エフェクタータンパク質。Ras シグナル伝達に様々なレベルで影響を及ぼす。第一に、活性化 Ras への結合を巡って RAF1 タンパク質と競合する。第二に、細胞骨格子モデル

ングを制御する ABL1 および ABL2 からのシグナル伝達を強化する。第三に、RAB5A を活性化することで、おそらく RAB5A のグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) として機能し、結合 GDP を遊離 GTP と交換し、Ras 活性化受容体のエンドサイトーシスを促進する。、PTM: ABL1 および ABL2 によってチロシン残基がリン酸化される。 PKD によって Ser-351 がリン酸化されます。、類似性:RIN (Ras 相互作用/干渉) ファミリーに属します。、類似性:1 つの Ras 関連ドメインを含みます。、類似性:1 つの SH2 ドメインを含みます。、類似性:1 つの VPS9 ドメインを含みます。、細胞内局在:一部は膜結合しています。、サブユニット:Ras タンパク質の GTP 結合型 (NRAS、HRAS、および KRAS) と相互作用します。この相互作用により、RAF1 と Ras の結合が阻害されます。 Ser-351 がリン酸化されると、14-3-3 タンパク質 YWHAB、YWHAЕ、および YWHAZ と相互作用します。 ABL1 および ABL2 の SH3 ドメインと相互作用します。 RAB5A と相互作用します。 Ras との相互作用は、14-3-3 タンパク質との相互作用によって制御および拮抗されると考えられます。 14-3-3 タンパク質との相互作用は、Ser-351 のリン酸化によって制御されます。、組織特異性:検査したすべての組織で発現し、脳、胎盤、脾臓で高レベルです。、機能:嫌悪記憶形成における神経可塑性の抑制調節因子として機能する可能性のある Ras エフェクタータンパク質。さまざまなレベルで Ras シグナル伝達に影響を及ぼすことができます。まず、活性化 Ras への結合をめぐって RAF1 タンパク質と競合します。次に、細胞骨格リモデリングを制御する ABL1 および ABL2 からのシグナル伝達を強化します。3 番目に、おそらく RAB5A のグアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) として機能し、結合した GDP を遊離 GTP に交換し、Ras 活性化受容体のエンドサイトーシスを促進することにより、RAB5A を活性化します。、PTM:ABL1 および ABL2 によってチロシン残基がリン酸化されます。 PKD によって Ser-351 がリン酸化されます。、類似性:RIN (Ras 相互作用/干渉) ファミリーに属します。、類似性:1 つの Ras 関連ドメインを含みます。、類似性:1 つの SH2 ドメインを含みます。、類似性:1 つの VPS9 ドメインを含みます。、細胞内局在:一部は膜結合しています。、サブユニット:Ras タンパク質の GTP 結合型 (NRAS、HRAS、および KRAS) と相互作用します。この相互作用により、RAF1 と Ras の結合が阻害されます。 Ser-351 がリン酸化されると、14-3-3 タンパク質 YWHAB、YWHAЕ、および YWHAZ と相互作用します。 ABL1 および ABL2 の SH3 ドメインと相互作用します。 RAB5A と相互作用します。 Ras との相互作用は、14-3-3 タンパク質との相互作用によって制御および拮抗されると考えられます。 14-3-3 タンパク質との相互作用は Ser-351 のリン酸化によって制御されます。、組織特異性: 検査したすべての組織で発現し、脳、胎盤、脾臓で高レベルです。、

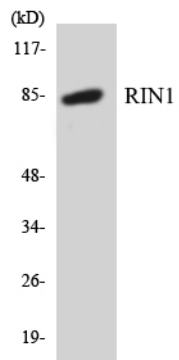
研究分野

神経科学、神経学プロセス、神経シグナル伝達、シグナル伝達、シグナル伝達経路、G タンパク質シグナル伝達、低分子 G タンパク質、Ras ファミリー、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、がん感受性、腫瘍抑制因子、がん、腫瘍タンパク質/抑制因子、腫瘍抑制因子

画像データ



K562 細胞ライセートの RIN1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



RIN1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。